

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|---|--------|-------------------|
| A-800/80C | 12-057 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Caffeine and alcohol intakes have no association with risk of multiple sclerosis. カフェイン摂取とアルコール摂取は、多発性硬化症との関係を認めなかった | | |
| 執筆者 | | |
| Massa J, O'Reilly E, Munger K, Ascherio A. | | |
| 掲載誌 | | |
| Mult Scler. 2013 Jan;19(1):53-8. | | |
| キーワード | | |
| カフェイン、アルコール摂取、多発性硬化症 | | |
| 要 旨 | | |
| <p>目的： アルコール摂取とカフェイン摂取と多発性硬化症 (MS) との関係について検討した、前向き調査はなく明らかになっていない。そこで、本論文ではアルコールとカフェイン摂取と多発性硬化症との関連について検討した。</p> <p>方法： アルコール、カフェイン摂取量と多発性硬化症との関連は Nurses` Health Study (NHS:1980~2004 年にフォローアップされた 92,275 人の女性) と Nurses` Health Study II (NHS II:1991~2005 年にフォローアップされた 95,051 人の女性) の2つ集団を対象として検討した。対象者の食事は、ベースライン時、以降 4 年ごとに自己式質問票にて評価した。フォローアップの期間、282 人が MS を発症した。そのうち、24 人はアルコールを飲酒量に関する情報が欠落していたので、残りの 258 人ケースで分析対象とした。</p> <p>結果： 総アルコール量もビール、ワイン、蒸留酒のそれぞれの消費量も MS のリスクと関係を認めなかった。多変量調整によって引き出された相対リスクは全く摂取しない人と比較するとアルコール摂取量 0.1~4.9g/day の人は 1.07(95%信頼区間は 0.32~1.99)、5.0~14.9gm/day の人は 1.01 (0.32~1.99)、15~29.9 gm/day の人は 1.21(0.69~2.15)、と 30 gm/day 以上の人は 0.80 (0.32~1.99)であった(傾向性検定 p=0.89)。カフェインの摂取も MS のリスクと関係を認めなかった。相対リスクは、カフェインの摂取量を四分位に分けるともっとも大量に摂取する群はもっとも摂取量が低い群と比較して有意な差を認めなかった (1.14, 0.79~1.66, 傾向性 p=0.71)。カフェイン入りとカフェインなしのコーヒーを比べてみても差は認めなかった。</p> <p>結論： これらの結果からアルコール摂取とカフェインの摂取は、MS の発症リスクとの間で関連性を示さなかった。</p> | | |